

## 糖尿病治療の最前線

# 体の変化を敏感に感じとるということ

胸の異変に気づき、心筋梗塞を免れたKさんのケース



担当医 久保 明

医学博士・  
糖尿病内分泌専門医  
東海大学医学部教授  
高輪メテICALクリニック院長

患者氏名

K・E様

年齢

71歳

性別

女性

現病歴

糖尿病、軽度の糖尿病性網膜症

### 糖

尿病と診断されて、かれこれ25年になるKさん。軽い網膜症はあるものの、長い糖尿病歴のわりには著しい合併症は見られず、飲み薬ですつと治療をしておられます。肥満もなく、ヘモグロビンA1cも、ここ2年くらいは8%台を維持し、落ち着いた状態でした。

ところが一昨年くらいから、「ときどき胸のあたりに変な感じをおぼえる」とおっしゃるようになりました。心臓カテーテル検査をしたところ、左の冠動脈に99%進行した狭窄があることがわかりました。血管が詰まる一歩手前です。また、右の冠動脈にも狭窄があり、冠動脈の多発病変が起きていました。

この冠動脈の多発病変というのは、糖尿病の方に見られる特徴的な症状でもあります。糖尿病からくる動脈硬化の進展により、冠動脈の数カ所で狭窄が起きてしまうのです。

Kさんには、すぐに冠動脈にステントを入れる治療を行いました。大学病院での大変な治療でしたが、あと1年もそのままにしていたら、多分心筋梗塞を発症していたことでしょう。

「まだ10年は元気でいたので、治療できてよかった」とご本人も胸をなでおろしておられました。

「糖尿病の患者さんには大きく2つのタイプがあり、ひとつはちよつとした体の変化を常に医者に訴えてこられる方、もうひとつは「糖尿病がある以外は健康」と変化に無頓着な方です。幸いKさんは前者のタイプだったため、重篤な状態に至らなくて済みました。

糖尿病の方の場合、心筋梗塞になっても痛みが出にくいことがあるので、体の変化に敏感になるに越したことはありません。「いつもと違う」と感じたら、すみやかに主治医の診察を受け、なるべく詳しく症状を伝えることをおすすめします。